

連携教育通信

令和6年 11月18日
 中野区教育委員会指導室
 就学前教育推進担当
 中野区中野4-11-19
 中野区役所 7階
 電話 03(3228)5589

中野区合同研究「教育・保育部会」「運動遊び部会」特集

令和6年度も中野区内の就学前教育・保育施設職員対象に中野区合同研究を行いました。

「教育・保育部会」「運動遊び部会」2つの部会で5月から11月まで各部会5回ずつ実施し、その中で5月の講義の会と11月の報告会は合同で行いました。今年度は特にグループでの学びを大切に、日常の保育・教育での実践の方法や悩みを共有して視野を広げ深めて進めてきました。

オプションとして小学校にもご協力いただき、1年生の外国語活動と体育の授業参観も実施しました。

本号では参加研究生の学びの様子をご紹介します。

<目的>

実践的研究をとおして区内の就学前教育・保育施設の連携・相互理解を推進し、中野区における就学前教育の質の向上に資する。

	<教育・保育部会>	<運動遊び部会>
テーマ	「子どもたちの主体的活動を引き出す保育を考える」	「就学前に経験したい運動遊び～鬼遊び～」
講師	和洋女子大学 人文学部 子ども発達学科 准教授 小山 朝子 先生	帝京平成大学 人文社会学部 児童学科 准教授 鈴木 邦明 先生
場所	中野区立教育センター	中野区立教育センター・小学校体育館

教育・保育部会

<研究テーマについて>

・中野区では生きる力の基礎となる生活習慣や社会性を身に付けるため「中野区就学前教育プログラム」や「中野区運動遊びプログラム」を活用し、子どもたちの発達の特性に配慮した教育・保育を推進しています。また、小学校への接続を見据えて「アプローチカリキュラム」や「スタートカリキュラム」などの実施、保育園幼稚園等の合同的な研究を進め、就学前教育の質の向上に取り組んでいます。保育者は小学校との発達や学びの連続性を重視した教育・保育を推進し、小学校に円滑に接続できるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した教育・保育を行っています。中でも課題になっている「主体的な取組」を深めたいと考え、今年度は「子どもたちの主体的活動を引き出す保育を考える」とテーマ設定し、自らの教育・保育を振り返りながら“主体的とは”を突き詰めていきました。

<研究の方法>

①講師の先生の講義を受ける。②各自クラスの子どもの現在の姿、保育の実践を振り返りながら、グループワークで共有し、考察する。③事例の書き方・事例用紙の枠の使い方の指導を受ける。④グループ間のアドバイス、講師の指導を受け、自身の保育を多角的に振り返り、実践する。⑤事例の書き方・分析の仕方を学び、事例を加筆修正する。⑥事例用紙の書き方について再度指導を受け、「子どもたちの主体的な姿や保育者の援助」について自らの保育の事例を作成する。⑦事例について研究生同士ポイントを伝え合う。

講義



グループ協議



事例用紙作成



運動遊び部会

<研究テーマについて>

・体づくりの運動系には「体ほぐしの運動遊び」「多様な動きをつくる運動遊び」があります。「体ほぐしの運動遊び」は技術の向上を目指すのではなく、手軽な運動遊びを行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようにしています。幼児期の運動遊びは「体ほぐしの運動遊び」を主としています。そこで「就学前に経験したい運動遊び～鬼遊び～」と題し、遊びの中で楽しく体を動かす習慣がつくよう、友達と関わって遊び、子どもたちが「またやりたい」と思える環境づくりや働きかけの工夫をグループで出し合い、自園の環境に合ったアレンジをしながら研究に取り組みました。

<研究の方法>

①講師の先生の講義を受ける。②講師の先生より、実技講習を受ける。③担当年齢でグループに分かれ、グループごとに共通の視点を決めて遊びを考える。④グループで設定した遊びを体育館で他のグループに伝えながら実践する。⑤学んだ遊びやグループ協議で得た遊びのヒントなどを自園で検証し、事例を作成する。⑥各自の事例を基に、さらに検証や考察を重ね研究を深める。



講義



グループ協議



実践



報告会 <11月1日 両部会合同で開催>

合同研究報告会を両部会合同で行いました。研究生44名を6グループに分け、それぞれがグループ内で自身の事例を報告しました。

「教育・保育部会」は、「主体性」に着目し、研究生が自園の実践事例を作成しました。事例のエピソードを報告すると、同じ年齢クラスを担当をしている研究生からは子どもの姿や悩みに共感する声も上がりました。

「運動遊び部会」の事例報告では、知らなかった鬼遊びや「あまり参加したがらない子どもへの対応」なども話され、無理なく楽しめている様子に「園にもどったらすぐにやってみたい」という声も聞かれました。

報告にあたって、参加者がわかりやすいように子どもの姿や遊びの様子をプリントにして見せながらの報告や、事例にある制作物を持って来てくれる研究生もいました。報告の後での振り返りでは、自分の報告の仕方や伝え方を振り返りました。「運動遊びも子どもたちが主体的に遊べることを大切にしていきたい。教育・保育の報告が参考になった」と合同報告会のよさも聞かれました。



<オプション>小学校授業参観

<10月15日 桃園第二小学校・外国語活動> <10月29日 啓明小学校・体育>

小学校に協力いただき、研究生の希望者が授業参観を行いました。45分間同じ授業を参観するのは初めての研究生が多く、先生の言葉かけや子どもたちの様子を熱心にメモをとっていました。授業参観の後は、授業を行った先生とお話する時間もあり、積極的に質問が出されていました。

外国語の授業は「パフェを作る」で、英語でパフェの具材を注文し、iPadで作っていました。

体育の授業は「跳の運動遊び」を忍者の修行に見立てて4つの場での動きを工夫しながら取り組んでいました。

友達との関わりの部分でも就学前教育・保育施設の研究生は学びの多い時間になりました。「今後も続けてほしい」という感想を多くの参加者からいただきました。

